

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

8/10

メディカル英語 No.3

医学英語の症例報告を読む —— Case Reportの構造で情報を抜く

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合
否判定を行ってきた当事者です。症例報告形式の医学英文で、専門語に圧倒されて情報を抜けない答案と、構造を手がかりに素早
く要旨を掴んだ答案の評価の差を、採点者として繰り返し目にしてきた。その実感が、この講座に込められています。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① 症例報告形式の英語長文読解

慶應義塾大学医学部・東京科学大学・順天堂大学医学部をはじめとする医学部入試の英語では、症例報告（Case Report）形式の英文が出題される。Chief Complaint・History・Findings・Diagnosis・Treatment・Outcomeという6パートの構造を知る受験生は、未知の専門語があっても情報を正確に抜くことができる。

② 内容説明・情報抽出問題

「患者の主訴は何か」「診断はどのように行われたか」という設問は、症例報告形式の英文読解で頻出である。構造を知る受験生は設問と本文の対応を瞬時に判断できるため、処理速度と正確性の両方で優位に立つ。

③ 医学部推薦・総合型選抜の英語課題

医学部推薦入試では英語論文・症例報告を事前課題として読む形式がある。症例報告の構造を知る受験生は、準備の質と面接での応答力が他の受験生と明確に異なる。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
慶應義塾大学 医学部	症例報告・医学英文の読解問題	6パートの構造知識が情報抽出の速度と精度を高める
東京科学大学	医学英語の内容説明・要約問題	構造を手がかりにした読解が処理速度に直結する
順天堂大学・昭和大学 医学部	医学英語長文の読解・設問処理	Case Report形式の習熟が設問対応力を高める
医学部推薦・総合型選抜（全般）	英語医学文献を前提とした口頭試問	構造読解の習熟が事前課題の質と面接対応力を高める

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

症例報告形式の英文を「一語一語訳す」アプローチで読む受験生は、専門語に出会うたびに止まる。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）Case Reportの6パートを見分けて情報を抜ける、（2）設問と本文パートの対応を瞬時に判断できる、（3）医学部推薦の英語課題を構造を手がかりに素早く読める、という変化が起きる。

何十年も医学部の英語答案を採点してきた清光学院の講師陣は、症例報告の読解で「構造を知っている答案」と「語彙に頼った答案」の評価の差を採点者として知っている。その実感が、この講座の根拠である。